

下記以外のイベント情報は25ページをご覧ください

問い合わせ 歴史民俗資料館 ☎258-6655 <http://www.jade.dti.ne.jp/~miyoshir/>

歴史民俗資料館

イベント名	日時	定員	参加費	申込締切	内容・備考
【企画展】 「武蔵野の雑木林と春の息吹－雑木林の成り立ちと生き物－」	3月24日(土)～ 5月20日(日)	—	無料	—	武蔵野の雑木林と農業の密接な関わりや、雑木林が育んだ多様な生態を紹介。植物・昆虫の標本や剥製も展示します。
「音楽のあるお茶会」	5月13日(日) 1席目:午後1時～ (コンサート) 午後2時～ 2席目:午後3時～ ※旧池上家住宅	1席目 2席目 各25人	300円	5月10日 (木)	裏千家茶の湯「みすまる会」によるお茶会。パイオリンと電子ピアノによる演奏もあります。一服のお茶とコンサート。畳の上でゆったりとした時間を過ごしませんか。



企画展「武蔵野の雑木林と春の息吹－雑木林の成り立ちと生き物－」展示風景

※持ち物等の詳細は、申し込み時にお伝えします。

問い合わせ コピスみよし ☎259-3211 <http://www.miyoshi-culture.jp/coppice/>

コピスみよし

5/20 (日) ピュア&パッション



NHKみんなのうた「エレファン」を作曲した注目の作曲家でピアニストの松本俊明と、日本を代表する若手バンドネオン奏者・三浦一馬による、埼玉西部地区では初公演です!!

【公演日時】 5月20日(日) 開演14:30
【会場】 コピスみよし ホール
【入場料】 全席指定 2,500円

6/2 (土) コピスみよしロビーコンサート
テルミン&マトリョミン アンサンブル



テルミンは1920年に発明された最古の電子楽器。楽器に手を触れずに奏できます。マトリョミンはテルミンの機能をマトリョシカの中に組み込んだ電子楽器です! 古くて新しい電子の“歌声”をお楽しみください。終演後、マトリョミン体験コーナーもお楽しみください。

【公演日時】 6月2日(土) 開演14:00
【会場】 コピスみよし 一階ロビー
【入場料】 無料

8/4 (土) 栗(くり)コーダーカルテット
夏休みに家族でゆったりコンサート



「ピタゴラスイッチ」や「つみきのいえ」でおなじみの栗コーダーカルテットによるコンサート。リコーダー、ピアノ、ウクレレ、ギター、パーカッション…、様々な楽器をあやつり、心温まる音楽を奏でます。

【公演日時】 8月4日(土) 開演14:00
【会場】 コピスみよし ホール
【入場料】 全席指定おとな2,000円
こども(中学生未満)1,000円
親子ペア 2,700円

問い合わせ 総合体育館 ☎258-0311 <http://www.miyoshi-culture.jp/arena/index.html>

総合体育館

カンフー入門
毎週月曜日 19:00～19:50



担当: 杉山
気功体操で心身のバランスを整え、中国拳法で「美しい姿勢」と「しなやかな動き」を身に付けます。

レップリーボック
毎週木曜日 20:30～21:15



担当: 陣野
リーボック社が推奨するトレーニングメニューで、リズムに合わせて、筋力、筋持久力、コアバランスを養い全身を引き締めていきます。

骨盤ストレッチ
毎週木曜日 14:15～15:15



担当: 嶋岡
骨盤と骨盤のまわりを正しい位置に調整・リセットし、美しい理想のボディラインに近づけていくクラス。

教育トピックス 放射線教育の充実を目指して

【問い合わせ】教育委員会学校教育課指導係 (内線525)

「放射線について正しい理解を」



放射線を理解するためには、高度で専門的な知識が必要です。し

原子力や放射線への正しい知識を身につける

平成20年3月に中学校の新学期指導要領が告示され、本年度より全面実施となりました。理科では、2、3年生の授業時数が増加し、週あたり4時間の授業が行われています。

この中で、40年ぶりに「放射線」に関しての学習が取り扱われることになりました。この学習では、科学技術と人間との関係、エネルギーと環境など総合的な見方を育てることを目標として取り組めます。

40年ぶりに放射線に関する学習

町では、放射線教育を充実させるために大学から専門家を招き、教員向けに放射線に関する研修会を開き、準備を進めてきました。中学校の理科教育の充実はもとより、小学校でも放射線教育が行われるように計画づくりをしています。

教員向けの放射線に関する研修会を開催

町では、これからの時代を生きる子どもたちは、エネルギー問題や環境問題の観点から、原子力や放射線に関する基礎的な正しい知識を身につける必要があります。



みよし歴史探訪 文化財を訪ねて

【問い合わせ】文化財保護課 ☎258-6655

第14回 ～北永井阿弥陀堂～

北永井の阿弥陀堂は、稲荷神社脇の共同墓地内にあり、明治前期に編さんされた「武蔵国入間郡村誌」に、「阿弥陀堂村の中央にあり本尊弥陀を安置す」と記されています。

阿弥陀如来は、西方極楽にいとされる仏です。平安時代以降、極楽浄土の思想が広まると、盛んに信仰され造像されるようになりました。堂内の阿弥陀如来坐像は、右手を胸の前へ上げ、左手は膝の上で前へ出して両手とも親指と人差し指をつける来迎印を結び、人々を救うために阿弥陀如来が迎えにくる時の姿を表現しています。

現在の阿弥陀堂は、平成一六年三月に新築されたものです。

阿弥陀堂新築に伴って仏像の修復が行われ、その際に仏像頭部より胎内納経が発見されました。経文の最後に仏像の由来が記されており、要約すると「この仏像を安置したのは、壽光という尼僧で、阿弥陀如来を信仰し、かねてから仏像を一体安置したいと願っていた。しかし、尼僧一人では仏像を一体造る費用もままならず、信心の厚い施主が造像に助力してくれたおかげで、この仏像彫刻が完成した。信心深い施主



の現世安楽と後生が善所であるように願い、この金色の仏像を尼壽光が安置する。この仏像を造ったのは、延宝六年(一六七八)九月のことである。」とありました。

長井村(北永井・南永井分村前)が開拓されたのは、寛文二年(一六六二)頃とされていることから、開拓後わずか十六年後にこの像が安置されたことになり、このことから、当該地には、開拓後さほど時をおかず墓地を守るための小さな庵のような建物が存在しており、壽光尼が庵主を勤め、阿弥陀如来像を奉納したことにより阿弥陀堂と称されるようになったと考えることもできるでしょう。